

三沢市立三沢病院



院内公開講座

「気になる病気の話っころ」

～市立病院に来てけじゃ～

気になる子の話：

『落ち着きのない子、こだわりが強い子／敏感な子、読み書きが苦手な子。』

～つなげよう将来へ。

『気づいて、理解し、はぐくんで～』

---

2017. 8. 31

講師：医療局長 江渡 修司 医師

#### I. はじめに

気になる子—欲しいものがあると、パッと取り上げてしまったり、気に入らないとすぐにかんしゃくを起こしたり、じっとしていられずあちこち行ってみたり—お母さんは全く息つく暇がありません。これが、三～四歳なら幼いから、と済まされましようが、六歳の子ではどうでしょう、少し心配ですね。

発達障害、という言葉がありますが、ここでは「特性」として捉えます。“気になる”お子さんにとって大事なのは「診断」ではなく、「療育」であり、彼らが将来困らぬよう、気づいて、理解して、育んでいけるように繋いでいく。これが我々大人の役目です。

## II. 子供の発達の開始と、ゴール

人間の子供は出生後、他の高等動物と異なり、独り歩きできるようになるまでに丸々一年間を要します。つまり、人間の場合は、全面的な世話を要する時期が存在し、個別の育ち／愛着形成を必要とします。これが、発達の始まりです。

では、発達のゴールはどこにあるのでしょうか？それは、「自立」に他なりません。

「自分で生活できる」

「人に迷惑をかけない」

「人の役に立つ」

この世に生を受けた瞬間から、自立するまでの全ての過程を親が大人が社会が責任をもって支援することが重要なのです。

## III. 気になる子の特性

### ① 落ち着きがない子

#### (1) 特徴

- ・気が散りやすく、興味のない事に集中できない。
- ・行動が衝動的。
- ・記憶が苦手で、記憶しても必要なときに引き出せない。
- ・何度叱られても同じ事を繰り返す。
- ・気分のコントロールが苦手。

#### (2) このような行動をとってしまう理由

人間は刺激に対して感情、欲望が生じると、反応を遅らせることで、反射的に行動しないようになります(=ブレーキ)。しかし、このような特性を持つお子さんは、ブレーキがうまく効かないため、反射的に反応してしまうのです。さらに、人間は、「経験」したことを基に、未来を予測し対処しますが、過去を振り返り今に活かすことを考えたり、未来を予測しないため、同じ過ちを繰り返し、行動は行き当たりばったりになります。

#### (3) 育ちと適切な対処法

落ち着きのなさは、多くは9歳前後には消失します。ただし、愛着形成の遅れや、叱責過多により、自己イメージの悪化や大人に対する反抗、などの二次的問題を生じやすいと言われます。過去を振り返り考える事が苦手なので、叱られると僕はダメな子なんだ、何をやってもできないんだ、などと自己否定感を持ち易くなります。その先は、「社会が悪い、環境のせいだ」と歪んだ捉え方をしていきます。

それでは、どのように対処すればいいのか。褒めることです。一度叱ったら、褒める。叱りっぱなしにしない。努力すればそれだけ成果があがるという実体験を抱かせることです。結果だけではなく、努力の過程を褒めてあげることも大切です。就学後なら、座席を教壇の目の前にする、机に不要な物を置かない、静かな場所を取り組ませるなど、環境調整が必要です。

### ② こだわりが強い子／過敏な子

#### (1) こだわり行動

手のひらを目の前でひらひらさせる。ぴよんぴよん飛び跳ねる。廻るもの・丸いもの、特定の記号、マークにだけ注目する。道順、物の位置、同じやり方、順番にこだわる。

## (2) 過敏性＝感覚過敏

- ・音が苦手（サイレン、赤ちゃんの泣き声、冷蔵庫の音）
- ・水が顔にかかるのを嫌がる、苦手な食感（ネバネバ、果物の酸っぱさ）、匂い（魚の生臭さ、整髪料）があり偏食になってしまう。
- ・光（眩しい光、点滅する蛍光灯、カメラのフラッシュ）
- ・色（白地に黒い字は目がチカチカして、気持ちが悪い。青い色を好んで使う）

### こだわり行動の意味は？

人間は幼児期には、人の出す情報と、機械音とを識別し始めているといわれます。目の前の人の出す情報に注意が向けられると、他の音は遮断されるようになります。ところが、こだわりが強いお子さんは、人の出す情報も機械の音も同じように流れ込むため、情報の洪水の中で立ち往生している状態にあるそうです。「自分の耳は調節不能のヘッドフォンだ」と表現した人もいます。

このような世界から自分を守る為の手段が、こだわり行動といわれます。決して、他人とのやり取りを拒んでいるのではないことを理解ください。

### 他の特性は？

曖昧で抽象的なことの認識が苦手な傾向にあります。例えば、ある子は遠足の事を作文にするという課題が与えられるとパニックになりました。どこが面白かったか、との問いに、皆で昼ご飯を食べている時、と答えたので、それを書いてみたら、とアドバイスすると、すらすら書き上げました。この子にとって、集合から、帰宅まで全てが遠足というわけです。

逆に、細かなところに目がいく、という長所もあります。木を観ている、と思ったら一枚一枚の葉っぱの葉脈が綺麗だ、とか端っこが虫に食われている、とか。むしろこのような行動は観察眼の鋭さ・才能として活かし育みたいものです。

### 乳児期に気づかれるサインは？

一歳六か月～二歳の時期に

- ・視線が合わない
- ・興味の指差しをしない
- ・名前を呼ばれても振り向かない
- ・他の子（兄弟以外）への関心が乏しい
- ・人見知りしない

などみられる場合は、保健センターや医師にご相談下さい。“様子を見る”という対応は避けるべきです。

### 対処法

こだわりは、ある程度は尊重し、特性を理解して、育みます。社会生活で困り感が出てこないように、根気強く解決に導いていきます。

知覚過敏については、幼児期は特に生理的に不安定なので、いたずらに触れない方が無難です。一度に複数の情報を提示しないようにします（見せる時は見せるだけ、言う時は言うだけ。体に触れながら、話をしない、など）。

このような特性を持つ子は早期に気づいてその時点で療育を介入することが肝要です。社会生活を営んでいくためには、いただきます、ありがとう、ごめんなさい、などのコミュニケーションツール、靴を揃える、順番を守る、などの社会のルールを学ぶ必要があります、これはお子さんにとって早ければ早い程定着する事が分かっている

るからです。乳幼児期は社会のルールを定着させることでよいのです。

### ③読み書きが苦手な子

#### (1) 文章を読むことが苦手な子

単語をひとまとまりとして読めない、助詞をとばして読んでしまう、など。

#### (2) 文字を書くことが苦手な子

書かせると、左右逆になってしまう、マスの中におさまった文字がかけない、など。

#### (3) 計算が苦手な子

#### 特徴

見た目だけでは気付かれにくいので、注意が必要です。

(例) 幼稚園の頃は、利発でリーダー的存在だった女の子。小学校入学し、引き算で $5 - 3 = 8$ ?数の大小をとらえにくい特性があったにも関わらず、毎日居残り勉強をするも、全く成果が上がらず。ある日、母親に「私はバカなの?」と聞いたことで、初めて気づかれることに。

このような子の特性は、弁が立つので、もっと出来るはず、と周囲から過度に期待される傾向にあります。怠けている、努力が足りない、挙句の果てには親が甘やかしている、と誤認されてしまうことさえあります。

成果の上まらない課題を漫然と与えられ、過剰な負荷となり、学習意欲の低下につながる、この状態が積み重なれば不登校、引きこもりにつながりかねません。何より、自己否定感を持ってしまいます。

#### 対処法

特性に合わせた学び方を工夫し、負担を軽減させること。こうした特性がありそうな子は、場合によっては、専門医療機関で、知能検査(どの能力が苦手で、どの能力が得意なのかを分析・評価する検査)をお願いすることで、対応の指針とすることも有用です。

自己肯定感、という意味では学習に限らず、得意な面を引き出してあげることも大切です。スポーツや課外活動、何か一つでもいいところがあれば、すぐ褒めてあげましょう。

参考までに、自立に必要な学力とは小学校4年生の読み書き算数が定着すること、といわれます。新聞を読む事が可能な国語力、買い物とお金の管理ができる程度の数学力、と置き換えることもできます。子供が自立までに、不要な自己否定感を持たせてしまい、大事な芽を摘んでしまうことだけは、是が非でも避けなくてはなりません。

## IV. 将来につなげる~

子供の発達の開始からゴールまで、気になる子に、大人が気づいてあげること、そしてそれは、早ければ早い方がよいのです。親御さんは気づいたら、お一人で悩むことはありません。

例えば、保健師を介し、保育士/幼稚園教諭→小学校→中学校→進学/就労、とつないでいき、必要に応じ医師が介入します。これこそが、療育です。子供の特性を理解し、育ちを支援していくことで発達のゴール=自立へと導いていくことこそが大人の役目です。未来は子供たちのものです。